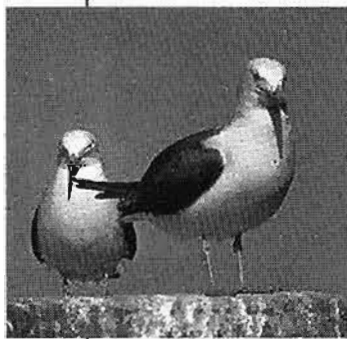


今月の話題 ウミネコのフィリピンへの移動初確認



今年1月、日本で標識したウミネコが相次いでフィリピンで発見されました。標識調査でウミネコの日本とフィリピン間の移動を確認したのは初めてです。日本産のウミネコが、今回のように長距離を南下した例はめずらしく、標識研究室ではこの冬の寒さが例年より厳しかったからではないかと推測しています。

フィリピンで発見されたのはルソン島で2例、サマル島で2例の計4例。鳥に付けられた足環から、ルソン島で発見された個体は1998年7月に北海道モユルリ島で佐藤文男研究員が、1999年6月に青森県燕島でバンダー(調査協力者)の成出憲一さんがそれぞれ標識放鳥したもの。また、サマル島で発見された個体は1997年6月に北海道奥尻島でバンダーの林吉彦さんが、1990年に東京都八丈島でバンダーの加賀実さんがそれぞれ標識放鳥したものであることが分かりました。発見者はいずれも地元の漁師で、漁網に絡まったり、衰弱し飛び立てないところを保護されました。4羽とも繁殖期である夏に標識放鳥され、燕島と八丈島ではヒナの時に、モユルリ島と奥尻島では成鳥に標識しています。放鳥されてから今回の発見まで最も期間が長いものでは11年、期間が短いものでも2年が経過していました。フィリピンでウミネコが観察されることは希なことから、日本産のウミネコが定期的にフィリピンに渡っているとは考えにくく、例年にない特別な現象という見方が有力です。



写真提供・馬場孝雄

この冬は、沖縄で例年になく多数のウミネコが観察されたとの報告もあり、今回の南下の記録は、気象の変化がウミネコにもたらした影響ではないかと考えられます。